

県立二中・那覇高校歴史概要

二中・那覇高校創立百十周年記念事業実行委員会
会長 宮里 博史（城岳同窓会会長）

県立二中は1910年に当時の沖縄県立中学校の分校として首里城の一角で創立され翌年県立二中として独立、1912年には嘉手納に移転、農林学校との併置問題、廃校問題等も発生しましたがこれらを乗り越えて1919年に現在地に移転しました。

二中時代においては校章「ペンと剣」に象徴される文武両道のもと学業、スポーツで目覚ましい成果を残しています。その後沖縄戦によって校舎も消滅し二中の歴史は閉じました。

戦後1947年に天妃小学校跡に新制度のもと男女共学の那覇高等学校として設置され1949年に再び現在地に戻り、二中の歴史と伝統は那覇高校へと受け継がれました。また同年「世紀の嵐吹きすさみ・・・」で始まる新校歌と校章が制定されています。戦後も今日まで文武両道のもと「和衷協同」「積極進取」の校訓を掲げて学業、スポーツ、文化面で輝かしい歴史と伝統を築き上げてきました。

これまでに二中含めて4万6千人余の卒業生を輩出し県内外各界で活躍していることは母校の誇りとするところです。

創立百十周年を迎えるにあたり、学校・PTA・同窓会が一体となって記念事業の準備を進めてまいりましたが、予期せぬ新型コロナ禍で残念ではありますが規模、内容は縮小することになりました。ご協力賜りました皆様に衷心より感謝申し上げます。